

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092200140		
法人名	株式会社 雄清		
事業所名(ユニット名)	グループホームなかはや		
所在地	和歌山県田辺市中芳養917-7		
自己評価作成日	令和4年8月31日	評価結果市町村受理日	令和4年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp">http://www.kaigokensaku.jp</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和4年9月30日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が地域の中で、その人らしい生活が送れるよう支援していくという基本姿勢は10年たった今も変わることなく、玄関前での外気浴やお茶会をしたり、毎年帰ってくるツバメの成長を喜び、今年はイチゴやトマト水栽培をし、収穫した物を食事に提供したりと楽しみを見つけて感動する機会を多く持てるように支援しています。屋内ではラジオ体操やレクリエーションで体を動かす機会を作り、職員と一緒に壁画やおやつを作ったり、歌謡曲や童謡のカラオケを歌って過ごすことも楽しみとなっています。又、お誕生日会や季節のイベント等を積極的に実施しており、手作りのケーキやイベント食を振る舞って楽しい時間を過ごしています。利用者が高齢、重度化していくことで急変時の対応をしっかりと勉強する為に毎年、救命講習を受け心臓マッサージ等、素早く対応でき、専門職としての責任を再認識する機会となっています。地道な積み重ねを継続することで利用者やご家族、地域の方々からも評価して頂ける事業所を目標として、これからも日々取り組んでいきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は事業開始から10年経過し地域に根付いている。田畑や山並みも眺められる静かな環境にある。職員の工夫で農業技術を活用したペットボトルでのトマトやイチゴなど栽培し、食事やおやつに提供している。コロナ禍で外出や地域との交流は控えているが、なかはや新聞の配布や家族との連携は絶やさず、有名演歌歌手のオンラインライブに参加したり、施設内での季節に応じた作品作りやお好み焼き、鍋物など食事も楽しめるよう努めている。職員は、上から指示されるのではなく率先して研修に参加し自己研鑽に励むことが出来ているとの意見もあるように、事務所内に『新しい認知症介護研修体系図』を掲示し、職員一人ひとりのスキルアップや事業所全体の評価にも繋がる努力をしている。また育児休暇や介護休暇も取れるよう取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の見える所に理念を掲示、確認出来るようにしており、時折、見ては自身を顧みている。管理者、職員は利用者や家族の願い、要望等を聞き、その人らしい暮らしが出来るよう努めている。又、職員自身スキルアップを図り、より良い支援の実現に向けて取り組んでいる。	利用者個人のその人らしい生活の支援や家族との信頼関係の構築、職員が生き生きと働ける職場作りを理念として事業所内に掲示し、全職員が共有し実践できるよう取り組んでいる。地域密着型サービスの意義を踏まえた研修にも参加しスキルアップを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防のため、日常的な交流は難しく、行事等も中止になり参加できていない。以前は地域の幼稚園、小、中学校、老人会の人達との交流があったので「なかはや便り」を作成し配布している。敬老の日には今でも小学生からお祝いのお手紙が届いている。	コロナ禍であり感染予防対策であることも地域にも周知いただき、日常的な交流や行事への参加も控えている。昨年12月には公民館での交流会に4名参加。「なかはや便り」を配布し、交流が途切れないように支援している。敬老の日には小学生からの手紙を受け取っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は地域の方々にも勉強会に参加してもらったこともあるがコロナ禍のため、行えていない。又、事業所は地域密着型の施設であり、相談等あれば対応できる事はあると思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防のため、会議は行えていないが、二ヶ月に一回、文書にて取り組み状況、施設内での行事等を報告している。	運営推進会議はコロナ禍でもあり会議は控え、二か月に一回は事業所の取り組みや現状の報告と質問票を送り、意見を受けている。また、月に数回は行政機関に出向き、口頭でも現状を伝え助言を受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍のため、運営推進会議に参加できていないが、市担当者に事業所の実情や取り組みを報告し、日頃から連絡を取り、助言を頂いている。	市の担当者と日頃から連絡を取り合い、感染症対策や困難事例について相談し助言を受けている。月に3、4回は窓口まで出向き、顔の見える関係性が途切れないよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年二回の研修を行い、新人職員には入社後すぐに研修を受けてもらっている。毎月の会議でも日常のケアについて振り返りながら、身体拘束にならないよう意識し合っている。しかし、やむを得ない場合は家族に同意をもらっている。玄関の施錠はやむを得ない場合と夜間以外は基本、施錠していない。	毎月のグループ会議や月2回のミーティングでスピーチロックなどについて職員間で無意識の言動を振り返り、自己申告から気づきを得られるよう、管理者や全職員と身体拘束しない取り組みを目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会を全職員が受けている。毎月の会議で身体拘束だけではなく、言葉の暴力、過剰服薬についても振り返り、意見交換しながら、正しく理解し虐待防止について確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会を行い、理解に努めているが、現在は対象者となる利用者がいないため、活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等際は文書を準備した上で相談、説明し、十分納得されるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているがコロナウイルス感染症対策の為、家族の面会は控えさせてもらっているので直接聞けないが、外部評価の際に記入してもらったアンケート集計表を活用し、改善する点を話し合い、運営に反映できるようにしている。	家族もコロナ禍で感染予防の理解を得て、面会は控えている。電話や手紙で情報共有し、同意を得ている家族にはラインで写真を送り、タブレットでの面会などリアルタイムで提供できるよう配慮している。またアンケートなどで改善する必要があるれば運営に反映するよう図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1～2回行っている個人面談や月一回の会議の中で全職員の意見、要望を聞き、提案があれば日常業務の中でも意見交換をしている。又、直接言えない場合の為に意見箱を設置しており、代表者に伝わるシステムができています。問題がおきた場合は緊急会議や必要に応じて文章で意見を聞き、運営に反映するように努めている。	年ごとや月一回の会議には代表者も参加し、日常業務でも検討が必要な場合などは代表者への意見箱を設置し、意見交換しやすい職場環境作りを心掛けている。認知症介護研修体系図を事務所に掲示し、現場のステップアップを後押しして運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を取り入れており、個々の努力や成果についての把握に努め、職員が改善しやすいように改善点を伝えている。給与・労働時間・職場環境は色々な制度を取り入れ、職員の状況に合わせた働き方に対応しており、できる限り他に劣らないように対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は控えているがスキルアップや資格取得の為に必要な研修や希望する研修等、オンライン研修を取り入れ受講している。又、施設内での勉強会も定期的に行い、計画的な人材育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に行っている時は、同業者の取り組み状況を聞き、良い所は取り入れていたが、ここ2、3年はコロナウイルス感染予防の為、交流ができていない。しかし、近隣の施設内から連携依頼があり体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コロナウイルスの影響もあり、現場職員が関わる機会は少ないが、ケアマネがサービス利用開始時に困っていることや不安に思っていることを聞き、現場職員はサービス計画書等で情報を得た上で要望に沿った解決の方法を一緒に考え、本人に寄り添いながら、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス担当者会議をケアマネとリーダーが数回に分けてカンファレンスを行う中で信頼関係の構築に努めている。又、荷物の搬入時等に職員も関わられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況等を聞き取り、事業所として出来る必要な支援と他の利用可能な社会資源等を提案、説明を行い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の出来る事や興味のある事は一緒に行うのは勿論のこと、出来なくても声をかけて一緒に行えるように努め、コミュニケーションを大切にしながら信頼関係を築いている。又、共に過ごす一員として感謝の言葉をかけ、思いを共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため、訪問時に直接、日頃の様子を伝えるというはできていないが、月一回のお手紙やテレビ電話を利用し、顔を見ながら話してもらい、職員も一緒に話をさせてもらっている。又、年賀状や暑中見舞い等で関係性を維持できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防の為、殆どできていないが家族とは、玄関先で短い時間の面会ができるようにしている。回数は減ったがドライブに行っても車から降りない、人が少ない等の工夫をしながら、行っている。	家族とはタブレット端末での面談や電話で様子を報告している。歯科医師や訪問理美容は継続できている。利用者も毛染めや散髪をしてもらい、利用者同士で話す表情が豊かになるよう生活にメリハリを持たせる工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格、関係性を把握し良好な関係を維持できるように時には職員も間に入ることがある。レクリエーションでは全員が参加出来るものを行い、利用者同士の信頼関係も築かれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの暮らしの継続性が損なわれないように退所後、移り住んだ先の関係者に対して、本人の状況・習慣・注意が必要な点等について情報提供し、ご家族とも継続して連携を心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己決定、意思表示のできる利用者には、日常の会話の中で思いを汲み取り、できる限り意向に添える様に努めている。飲み物やおやつ等を選んで頂く事もある。又、決定の困難な利用者の場合は、より良いケアが出来るように都度話し合い、月一回の会議に挙げ、本人の意向の把握に努めている。	意思表示できない利用者でも表情や行動など日常の様子から気持ちを汲み取るよう心掛け、利用者一人ひとりの思いや暮らし方について職員も検討課題を会議で発信し、課題解決に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴や暮らし方については、アセスメントや先輩職員から今までの経過等を聞いている。又、日常の会話の中でも今までの生活環境の情報を得て、本人の全体像の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方は概ね決まっているが、やりたい事、出来そうな事は会議等で意見交換し、残存機能を活かすケア方法の統一を図りながら実践している。又、変わった事や急変時には記録や写真に収め、申し送りを確実にし、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回の会議で一人一人の現状についてモニタリングを実施し、意見交換した中で良い案は実行している。コロナウイルスの為、家族には電話で本人の状態を報告して意見を頂き、医療関係者には受診、往診時等に意見聴取し、無理のない現状に即した介護計画を作成し、支援ができるよう努めている。	月一回の会議や利用者一人ひとりの現状についてモニタリングし、利用者や家族から機能訓練や鍼灸治療の要望があれば医師に相談し、療法士や鍼灸師の訪問を受け入れるよう介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアについては記録し、気になる事は申し送りに残し、口頭でも伝える事で情報を共有している。月一回の会議でも介護計画の見直しや結果について話し合いをし、反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて通院の送迎、付き添いを対応し、家族と共に医療機関との密な連携を図っている。又、遠方の家族が多い中で生活用品等の必要な物品がある場合、了承を得て事業所で対応し、買い物代行等を個々に合わせた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域との協働はできていないが、例年であれば、園児との交流や夏祭りに参加、秋祭りでは青年団が馬を連れ、馬子唄を披露してくれる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の定期的な往診が主だが、今までのかかりつけ医や専門病院への受診も支援している。家族、本人の希望に沿い、必要に応じた医療を受けられるよう支援している。	主に往診であるが、訪問看護事業所と24時間対応で連絡が取れる体制を整え、医師とも連携できている。利用者や家族の意向で延命を望まない場合でも、家族の了解を得てやむを得ず救急搬送の対応もこの1年で1回対応した。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との連携に基づき、毎週定期的に来てもらい、健康管理や医療面での気になる事の相談、助言をもらい、必要に応じた処置も行ってもらっている。何かあれば、いつでも相談を受けてくれる。又、事業所内の看護師にも相談し病状悪化の早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療連携室への情報提供を行い、本人に面会して状態の把握に努めている。退院時にはカンファレンスを依頼し、退院後の注意時事項、入院中の様子を教えて頂き、職員間で情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化対応・終末期ケア対応指針により説明を行っている。又、必要な状態となった場合は主治医・訪問看護師との連携も取れており、家族にも相談し対応している。職員は看取りに関する研修に参加しており、終末期ケア専門士の資格を取得している職員もいる。実際に看取りを行った経緯もあり、家族・医療・看護・介護でのチームケアが出来たと思う。	入居時に重度化した場合や看取りについて指針を示し、意向を確認している。終末期ケア専門士の資格取得した職員が二名おり、実際に看取りも経験している。今後も受講希望者には資格取得できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、救命救急士による講習を全職員が受け、心肺蘇生とAEDの使用方法を実践して学んでいる。救急車の呼び方、誤嚥時等の対応方法も講習して頂いており、技能維持に努めている。又、緊急時の連絡体制を事務所に提示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、消防署立会いで避難訓練を実施しており、消火器の使い方等の講習を受け、対応できるよう努めている。施設内でも災害対策訓練を行っている。又、防災担当者を中心にマニュアルの見直しを行っている。	年二回の火災と水害を想定した避難訓練を実施している。コロナ禍でもあり、近隣に避難できる高台がないため、まずは二階への垂直避難訓練を実施した。	感染対策と防災対策担当者を決め、今後の課題でもあるBCPや備蓄などについて、事業所独自の『なかはやバージョン』作成の準備段階であり、考案が実現されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全員に同じ対応をするのではなく、個々の性格や認知症の症状の違いを理解し、誇りやプライバシーを損ねないような声掛けに努めている。又、研修や勉強会でプライバシーや言葉使い、声のかけ方についての話し合いも行い、実践して気を付けるようにしている。	利用者一人ひとりの人格や個性、基礎疾患や認知症の周辺症状などを理解し言葉かけにも注意している。認知症ケア専門士や施設介護実習指導の有資格者もおり事業所内での研修も行い、職員の自己覚知と研鑽に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の何気ない場面や会話の中で、本人の思いや要望を引き出せるような問いかけ、選びやすい声かけをし、できる限り自己決定できるように促している。はっきりした決定が出来なくても、押しつける事がないように何ができるのか考えながら、声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、ある程度は本人の気分に添って、自由に過ごしてもらっている。その日の体調や状態、状況に応じて、臨機応変に対応しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに衣替えを行い、機会があれば本人に服を選んでもらうこともある。訪問カットでは好みの髪型を聞いている。又、自分で出来る人は鏡を見ながら、髪を整えたり、髭を剃ってもらい、その人らしい清潔な身だしなみが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食事は外注だが、お好み焼きやお鍋をしたり、かき氷やスイカ割り、ホットケーキ等を準備する所から手伝ってもらい、楽しめるように工夫している。又、トマトやイチゴの栽培から収穫までを一緒に行った物だと声をかけて食べてもらった。	食事は外注で、利用者や職員も検食した中から好評であった配食業者で定着している。季節や行事、気分転換を図れるよう外注以外にも鍋やお好み焼き、おやつ作りをしている。事業所でも栽培したトマトなどで食べる楽しみを持てるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事を提供しており、一人一人に合わせた食事形態にしている。食事、水分の摂取量を記録し、水分量が少ない人には好みに合わせたり、水分の多いおやつを提供している。又、年二回、採血を実施し栄養状態について医師と連携し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、マウスウォッシュを混ぜた水でうがいをし、口臭のケアを行っている。義歯は週三回消毒し、口腔用品も週一回消毒して清潔を保持している。職員は月一回、歯科衛生士による口腔ケア指導を受け、利用者は月一回、先生による口腔チェックを受け、必要に応じて治療できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを把握し、リハビリパンツやパットを使用している利用者が殆どだが、トイレでの排泄を促している。オムツの方は定期的にパット交換を行い、場合によってはトイレに座り排泄を促すこともある。	利用者の排泄記録をタブレット端末で記録し、全職員が確認している。排便困難な利用者に応じて腸に優しい粉末剤で調整し、4日排便がない場合はイチジク浣腸を行うなど排泄パターンを把握している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂ってもらい、バナナや乳製品の摂取を勧めている。軽運動を日常的に取り入れ、体を動かす事も大切にしている。排便記録を確認し、排便が出にくい時は、腹部マッサージ等を行う事で腸を刺激し、便秘予防に努めている。又、服薬を上手にしようし、個々に合った排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	小規模との兼ね合いもあり、基本的な曜日、時間帯は決まっているが本人の希望によって順番をずらす事はある。個々に合った入浴方法で入浴剤を使ったり、季節感を出すため柚子風呂を用意し、ゆっくりと過ごす時間がもてるように支援している。	その時の心身状態に応じて、シャワー浴や機械浴、一般浴を選択し、週2、3回は入浴できるよう対応している。皮膚状態も観察し、入浴剤や柚子風呂など提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、起きていることがしんどい方は午睡をして休んでもらい、レクリエーションや体を動かす事で日中の覚醒を無理のない範囲で促し、楽しく穏やかに過ごして夜間の良眠につなげられるように努めている。又、ベッド周りには一人一人違い、休息や安眠ができるように整え、空調管理も行いながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はいつでも確認できるようにファイリングしており、飲み忘れや誤飲がないように職員同士で確認し、変更時は申し送りして情報共有している。頓服についても相談し、状態や様子を記録に残し、申し送っている。緩下剤は排便の状態によって調整し、薬の相談はかかりつけ薬局でしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をハンガーから外してもらったり、畳んでもらったり、壁画作成等、得意な事をお手伝いしてもらっている。難しい事でも一緒に行い、新たな部分を引き出せるようにしており、終わった後には感謝の言葉を伝えている。又、歌が好きな人やテレビが好きな人もおり、好きな事に時間が取れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防の為、外出支援は殆どできていないが、ドライブで桜の花を見に行き、玄関先での外気浴、お茶会で外の空気に触れ、季節を感じてもらっている。	例年であれば、庭先にテントを張ってお茶会や外気浴をしている。今年はドライブで梅の花を車中で見に出掛け、季節感を味わってもらっている。コロナ禍でもあるため、家族との外出は控えている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持している人はほとんどおらず、使う事もない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを自分で書ける方は書いてもらい、書けなくても職員と一緒にスタンプを押ししたり、手作りして出している。母の日、父の日にプレゼントと一緒に手紙が届いたり、タブレットで家族とのテレビ電話の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ感染対策として共用場所は毎日掃除や消毒をし清潔にしている。利用者が動きやすいようにテレビを壁掛けに替え、大小のソファを置くようになり、より一層くつろげる場になった。又、季節の花や壁画を飾り、明るい雰囲気になるように工夫している。空調管理にも注意しており、適宜、換気をするようにしている。	感染予防のため、事務室前の廊下からフロアを覗かせて頂いた。テレビは壁掛けにしてから共用スペースも広くなり、利用者の動線も確保できている。掃き出し窓からの採光も十分にあり、季節感を味わえるよう飾りも工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごす時間が多く、テーブルを中央に置き、輪になるように椅子を配置し、皆で顔を合わせ会話もしやすいようにしている。ソファも置いてあり、思い思いの空間でくつろいでもらっている。又、離れた場所にも椅子を置いてあり、一人静かに過ごせるような工夫もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔からの使い慣れた物を置いている人もおり、家族との写真や家族からの贈り物を飾り、居心地良く過ごせるような工夫をしている。又、整理整頓に心掛けており、危険がないよう配置に気をつけ、過ごしやすい空間、清潔を心がけている。	コロナ禍でもあり利用者の居室は見る事が出来なかったため、パンフレットの写真で確認した。利用者の馴染みの物や飾りを施し、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ローカや居室等の導線には移動の妨げになるような物は置かず、自由に移動して頂けるようにしている。場所ごとに暖簾や貼り紙を表示し、居室の戸には職員手作りの名前プレートを掛けることにより、できることやわかることを伸ばせるように支援し、工夫もしている。		